

道の駅再整備に向けた 思いは

近藤 武 議員

メリットを生かした投資運営ができる
市長



問 道の駅の防災対策上の位置付けは。

答 愛西市地域防災計画では、「救援物資集積拠点」とし、県内外から届いた救援物資の仕分け作業や避難所などに輸送する拠点となる。

その他にも、既存の道の駅と都市公園を合わせて活用することで、緊急消防援助隊など、広域支援部隊の一時集結場所やベースキャンプとしての機能も考えられる。

問 一年を通して楽しめる都市公園のPRポイントとは。

答 「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」に加えて、「観光拠点機能」として、本市の特産農産物の収穫を体験できる施設や実際に食べることでできる飲食施設やバーベキューテラスのほか、子どもの遊び場やイベント会場として活用できる多目的広場などを整備する予定。



▲花はす田の風景

問 厳しい財政状況においても観光施策に取り組む理由は。

答 「第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標の一つで、「愛西市の魅力発信と観光振興」を掲げている。

愛西市を直接訪れてもらう交流人口や関係人口が増えていくことは、将来的には定住人口の増加にもつながる。

人口減少社会が進展する中で、愛西市を選んでもらうために、観光施策は「今」やらなければならない施策であると考えている。

問 改めて、再整備に向けた市長の思いは。

答 民間的発想を取り入れ、公共というメリットを生かした投資運営ができる事業だと考える。

現状維持のままではなく、投資や新たな発想で愛西市を発展させる必要がある。

来場者数だけ見ると、年々減少傾向ではあるが、海部地域では、最大規模の集客力がある観光拠点となっている。

厳しい財政状況だが、国・県の情報を収集して、より効果的な財源を確保し、整備を進めていきたい。